

ストック効果① 積雪期の交通機能の確保

【現状】

当地域は、急峻狭隘な地形であり、尚且つ全国有数の豪雪寒冷地帯という厳しい自然環境であります。冬期間は、堆雪により道幅が狭くなることで速度低下に伴う渋滞が発生し、また交通規制を伴う運搬排雪作業により、定時性・速達性が著しく低下している現状であります。

今年2月には法面からの雪崩発生により、国道13号が3日間に亘り全面通行止めとなりました。近くに代替え路線が無いことから広域的迂回が強いられ、両県域住民の生活をはじめ、物流など多方面に亘って影響が生じました。



堆雪により道路幅員が減少



雪崩により道路が閉塞



大型車によるスリップ事故(金山町飛森地内)



積雪2mの全層雪崩

通行止めとなった区間の雪崩の発生箇所



高規格幹線道路の整備により

【効果】 安全で安心できる冬期交通環境の確保！

山形県新庄市役所～秋田県湯沢市役所間の所要時間

(通常期積雪なし:試算) 現況:約1時間20分

⇒全線整備後:約55分(約25分の短縮)

【効果】 救急救命格差の是正！

【効果】 定時性確保による地域経済活動の活性化！

## ストック効果② 企業進出・雇用の喚起

**【効果】企業誘致による地域活性化！人口減少へ歯止めを！**

**高規格幹線道路の整備が着実に進むことで、企業進出などの民間投資が実現しています。企業進出は、地域経済を活性化させ、若者定住による人口減少の抑止効果を発揮します。**



湯沢市：(株)富士ソーイング

①

「株式会社富士ソーイング」「エドモンド・オプティクス・ジャパン株式会社」工場建設用地譲渡に関する覚書調印式

「市のために尽力したい」百人規模の雇用予定

市が湯沢工業団地(宮石崎)に誘致を進めていた山形県新庄市の縫製会社「株式会社富士ソーイング」が正式に進出を表明し、四月十六日、市役所本庁舎で、同じく誘致企業の「エドモンド・オプティクス・ジャパン株式会社」(本社・東京)と工場建設用地譲渡に関する覚書調印式を行いました。

式には、富士ソーイングの長澤憲一社長、エドモンド・オプティクス・ジャパンの齊藤美幸社長と両社の関係者、齊藤市長など市の関係者が立ち会い、両社長により覚書が締結されました。締結後、齊藤市長は「雇用の問題で苦慮していたときに、大変良いご縁をいただいた。これを機にさらなる発展を祈念している」とあいさつ。長澤社長は「いろいろ候補地を見てきたが、湯沢市の迅速な対応に感銘を受けた。今年十月には操業開始を予定し、まずは百人程度の雇用を考えている。今後は、力の限り市のために尽力したい」、齊藤市長は「湯沢の誘致企業として四年。未利用地が有効利用でき、市のためになるのであればと引き受けた。お役に立ててうれしい」と笑顔であいさつしました。



調印式を終えて笑顔を見せる(右から)長澤社長、齊藤市長、齊藤社長

富士ソーイングは、デザイナーズブランドの高級服を手掛けており、中国や欧米などの需要が好調なことから、事業拡張のため湯沢市に新工場を建設するものです。これに伴い、操業開始までに従業員を百人規模で雇用予定。今後は、業績に応じて雇用規模の拡大も視野に入れています。

広報ゆざわ(平成26年5月15日)

## アキレス、金山に新工場

16年操業予定

伊藤社長(大石田町出身)意欲語る

シューズやプラスチック製品製造などのアキレス(東京)は4日、金山町との間で新たな工場を開業するための立地協定を結んだ。同社の伊藤守社長(大石田町出身)が同日、金山町の鈴木洋町長、柴田清正町議会議長とともに県庁を訪れ、吉村美栄子知事に工場開設の意向を伝えた。2016年1月の操業開始を予定している。



同社は、運動靴「隣足」をはじめとする多彩なシューズ製品、フィルムなどのプラスチック製品、断熱材などを活用し総額3億8500万円をかけて用地取得から造成、建築面積約2700平方メートルの平屋工場の建設までを行い、同社に貸与する。賃貸契約期間は20年。立地を予定しているのは



金山町への工場立地を歓迎し、吉村美栄子知事から飾り駒を贈られるアキレスの伊藤守社長(右)。左は鈴木洋金山町長

工場では、寝具や梱包(こ)った東北に拠点を設けたいんぼ)材、クッション材などに用いる軟質ウレタンフォームの加工などを行う。操業開始時は地元が15人程度を雇用し、数年後は40人規模まで拡大していく考えだ。同社は「大石田町出身の理由を説明。できるだけ早い操業開始を目指したい」と意欲を語った。一方、鈴木町長は「町の提案を受け入れ、英断いただいたことを喜んでいて、働く場を増やすことで地方の元気を取り戻したい」と話した。

山形新聞(平成26年11月5日)



金山町：アキレス(株) 工場建設中

# エスユーエス、新庄中核団地に進出 天童の足場施工会社

2015年06月23日 13:19

足場施工業エスユーエス（天童市、吉田栄寛社長）が新庄市の新庄中核工業団地に進出することが決まり、土地を保有する市との間で交わす用地分譲契約、環境保全協定の調印式が22日、市役所で行われた。

業務拡大により、同市本合海の新庄営業所が手狭になったため、移転して新社屋を建設し、資材置き場として使う。さらに庄内地域や秋田、宮城両県への営業拠点としての機能も担う。取得した土地は1万419平方メートル。早期の新社屋着工、営業開始を目指す。

調印式では山尾順紀市長と吉田社長が用地分譲契約、環境保全協定、覚書を締結し、山尾市長は「新庄中核工業団地で御社がさらに発展することを願う」とあいさつ。吉田社長は「地域の建設業者の安全を守れるよう、地域密着で頑張りたい」と話した。

同工業団地は1984（昭和59）年に分譲を始め、全50区画中、残り8区画となっている。

東京に本社がある国産材製材大手企業が、新庄市に県内初の集成材工場の建設を検討していることが6日、分かった。関係者によると、この企業は「協和木材」。工場の年間原木消費量は12万立方メートルの想定で、実現すれば本県の雇用創出や森林資源の利活用が期待でき、県は「ぜひ実現したい」（佐藤新林業振興課長）と意気込みを示している。

県が同日の県議会農林水産常任委員会で明らかにした。県などによると、新庄市内に計画されている集成材工場は年間12万立方メートルの原木を使い、3万6千立方メートルの製品を出荷する。従業員数は60人程度と見込まれる。現在、用地取得に向けて地権者との協議が進められている。

県は企業名や具体的な建設場所は明らかにしていない。進出を検討している「協和木材」は、福島県瑞穂町にスギ、ヒノキの柱、梁（はり）などを製造する工場と、スギ集成材の工場がある。山形新聞社の取材に対し、同社広報は「進出を計画中かも含めて現段階では話せない」としている。

県内には集成材や合板の製造工場がない。県は2011年度から、合板大手セイホク（東京都）の合板工場の誘致を続けてきたが、実現しなかった。県内材木業界関係者は「集成材工場ができることで県内の加工用木材の需要が高まる」ことが期待される。丸太など素材生産に関わる人材の育成にもつながると話す。

常任委員会で県農林水産部の若松正俊部長は「本県には山間部を中心とした人口減少、働く場の減少といった多くの課題があり、大型工場ができるメリットは大きい。政府が掲げる地方創生とも連動する。（森林資源で地域経済の振興を図



## 新庄に集成材工場

### 県内初 製材大手（東京）が検討

県「ぜひ実現」

（平成26年11月7日）山形新聞



新庄市：協和木材（株） 事業中（造成工事中）

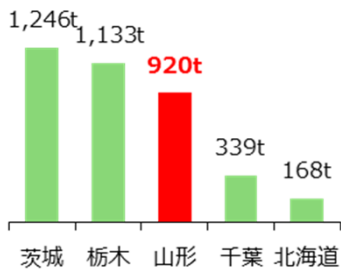


## ストック効果③ 地域産業の支援

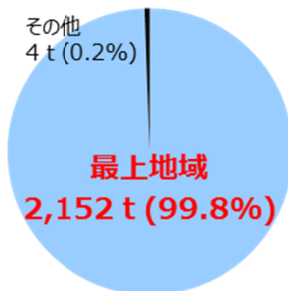
### 【効果】 特産品の鮮度保持と定時性確保により農業振興を支援！

- ◆ 農産物は、「鮮度の保持」「市場出荷の安定化」「輸送コストの削減」が重要！  
出荷の定時性確保と鮮度保持 ⇒ 市場の評価向上 ⇒ 農業振興へ繋がる！
- ◆ **最上地域のニラ「達者de菜」**は、東京卸売市場での取扱量**全国3位**  
**秋田県のいちご**は、東京卸売市場での取扱量**全国2位（夏期）**。水稲は**全国3位**  
道路整備により出荷量増加に期待！おいしい農産物を全国へ！
- ◆ 近年、若年層の新規就業者が増加 ⇒ 農業振興による地域活性化に期待！

#### ▼【東京卸売市場 ニラ取扱量】 ▼山形県内のニラ出荷割合 ▼ブランドニラ「達者de菜」 ▼【東京卸売市場 イチゴ取扱量】



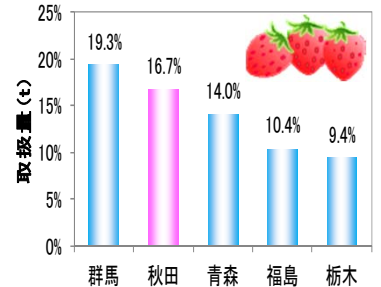
資料：東京中央卸売市場 HP(H26.6~10計)



資料：最上の農業(H25)



資料：おいしい山形HP 広報かねやま(2013.7)



出典：東京都中央卸売市場HP (H26.6~7)

## 美味しい農産物が豊富



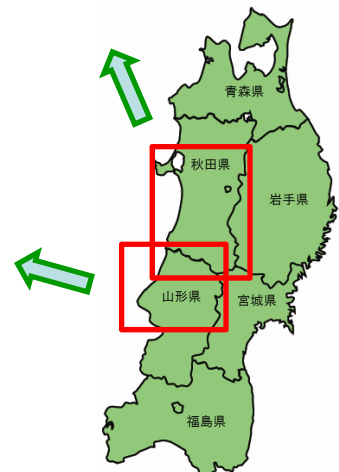
▲アスパラガス（最上町）



▲さくらんぼ ▼すいか（湯沢市）



▲バラ（鮭川村）



## ストック効果④ 周遊観光を支え地域経済に貢献

### 【効果】地域観光資源の周遊交流による地域活性化！

- ・四季折々の豊かな自然と温泉、街並み景観に祭りなど、魅力的な観光資源が多数存在。
- ・移動時間が短縮される事に加え、定時性が確保されることで新たな観光周遊ルートへの創出が実現！
- ・広域観光資源を周遊する事が可能となり、誘客数の増加が地域活性化に寄与。

#### 【山形県北・秋田県境地域の主な観光資源】



#### 【地域間交流：峠サミット】

国道13号、国道47号、国道108号を通る山形県（金山町、真室川町、最上町）秋田県（湯沢市、由利本荘市）、宮城県（大崎市）の県境を接する6つの自治体が、東北の中央に位置するこの地域を、整備が進められる道路を通し、一層の活力ある地域の連携「東北どまんなか交流圏」と命名して、「ひと、もの、文化」の交流活動を行っている。

今後は、十字連携軸の核となる新庄市を加え、東は宮城県大崎市鹿島台の太平洋から西は秋田県由利本荘市の日本海までつながる、東北中央分の県域を越えた交流活動としてや創造が期待されている。